

令和 7 年 度
宮崎国際大学 国際教養学部
指定校推薦

試 験 問 題
【小 論 文】

受 験 番 号
氏 名

次の文章は、イタリアで国連職員として働いた経験のある^{たじま まい こ}田島 麻衣子さんが、世界で活躍する人が必ず持っている共通点について述べたものです。田島さんの意見を要約するとともに、それに対するあなたの意見を、600字以内で述べなさい。

日本の有名^{※1}コンサルティング会社で長く働く北欧出身の知人に、こんな話を聞いたことがあります。「^{※2}クライアント先で会う日本人は、会議であまり発言せず、常に会議室の後方に固まって座っていて、消極的に見える」。

確かに、日本人は集団の中で個として目立つことを避ける傾向にあります。それぞれ思うところはあっても、発言することで、下手に「出る杭」になることを、意図的に避けようとします。日本社会には、他人と同じでなければならないという無言の圧力が、確かにあるように感じます。この傾向は、日本の外から眺めてみると、さらに目立ちます。

みんな同じ型のかばん（＝ランドセル）を持って通った小学校時代から始まり、みんなと「違う」人間がいじめの標的になった中学・高校時代。そして、同じリクルートスーツに身を包み、懸命に就職活動した（している）私たちの思考に、このことは少なからず影響を及ぼしていると思います。

ある商品が爆発的に流行する現象も、裏を返せば、「周りと同じでありたい欲求」の表れでしょう。イタリアも、日本と同じように地域社会の連帯力が強いですが、集団で同じような行動を取るといった、無言の圧力による縛りはありません。

世界に視点を移してみれば、自分と同じ要素を他人の中に見つけることのほうが、むしろ困難になります。異なる目の色、異なる肌の色といった身体的な違いから始まり、倫理的な価値観や宗教観など、基本とする考え方、信条さえも異なってきます。

このような環境においては、自分が他人と違うことは、至って自然なことだと考えられます。逆に、人と違うことが、その人の個性として周りから認められる要素になります。例えば、「こんなユニークなアイデアを思いついた」、あるいは、「特別な人的ネットワークを持っている」など、人と違うことを積極的に表現することで、自分の存在を周りにアピールすることができます。

ただし、人と違うことがいいと言っても、独りよがりの主張は疎まれるので要注意です。建設的な意見を述べる人、共通のゴールを見つけるために意見を出す人こそが、周囲に尊重されます。

グローバルな仕事環境においては、会議中、一度も有用な発言ができない人は、残念ながら周りから認めてもらえません。当然、集団で会議室の後方に固まって座るなど、あり得ない話です。

グローバルな場で活躍している人であれば、一般的には、司会役の視線を受け止めやすい場所など、自分が有利に発言できそうな席を選んで座ります。冒頭のコンサルティング会社

勤務の知人が、日本人を見て不思議がるのも無理のない話です。

国境を越えて活躍する人々は、「人と同じでなければならない」と考えない代わりに、実は死ぬほど気にしていることがあります。それは、「自分のクライアントと自分の上司が考えていること」です。

それ以外のこと、例えば、「周りに自分がどう思われているのだろう」、あるいは、「周りに合わせなければならないのではないか」については気にしていません。むしろ人と違うほうが、自分を有効にアピールできると踏んでいるようです。

なお、自分らしさを大切に、人と違う意見を持つことは、日本人の強みの一つである「協調性」を失うことではありません。この二つは共存し得る価値観です。公やチームの利益最大化のために、積極的に努力する過程で発揮される協調性は、むしろ歓迎されるべきものです。

「人と違うことはいいことだと考える」、それは、広い世界でさまざまな人と仕事をするために、持っておくといい小さな心構えかもしれません。

(注) ※1 コンサルティング … 企業経営などについて相談を受け、診断・助言・指導を行うこと。

※2 クライアント … 依頼人。顧客。

(田島麻衣子『世界で働く人になる!』による)